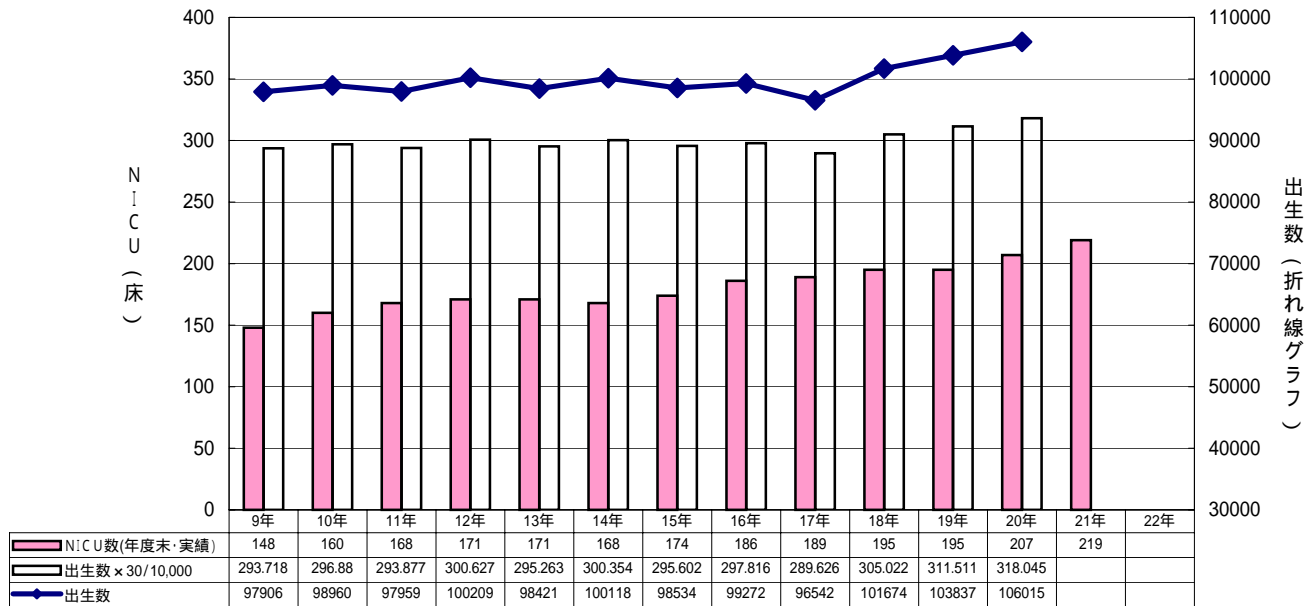


# N I C U 整備目標について

資料 3

## 1 出生数とNICU病床数の推移



21年は、NICU病床数は12月1日現在のものである。  
出生数は人口動態統計

## 2 平成19年のNICU必要数(体重別)

	出生体重	年間出生数	NICU入院率(%)	NICU入院期間(日)	NICU必要数	
体重別	～ 999g	314	100	96.4	82.9	
	1,000～1,499g	479	100	64.9	85.2	
	1,500～1,999g	1,185	51	24.2	40.1	
	2,000～2,499g	7,809	11	16.2	38.1	
	2,500g～	94,050	1	16.7	43.0	
合計		103,837			289.3	出生千対 2.79
	内低出生体重児	9,787				

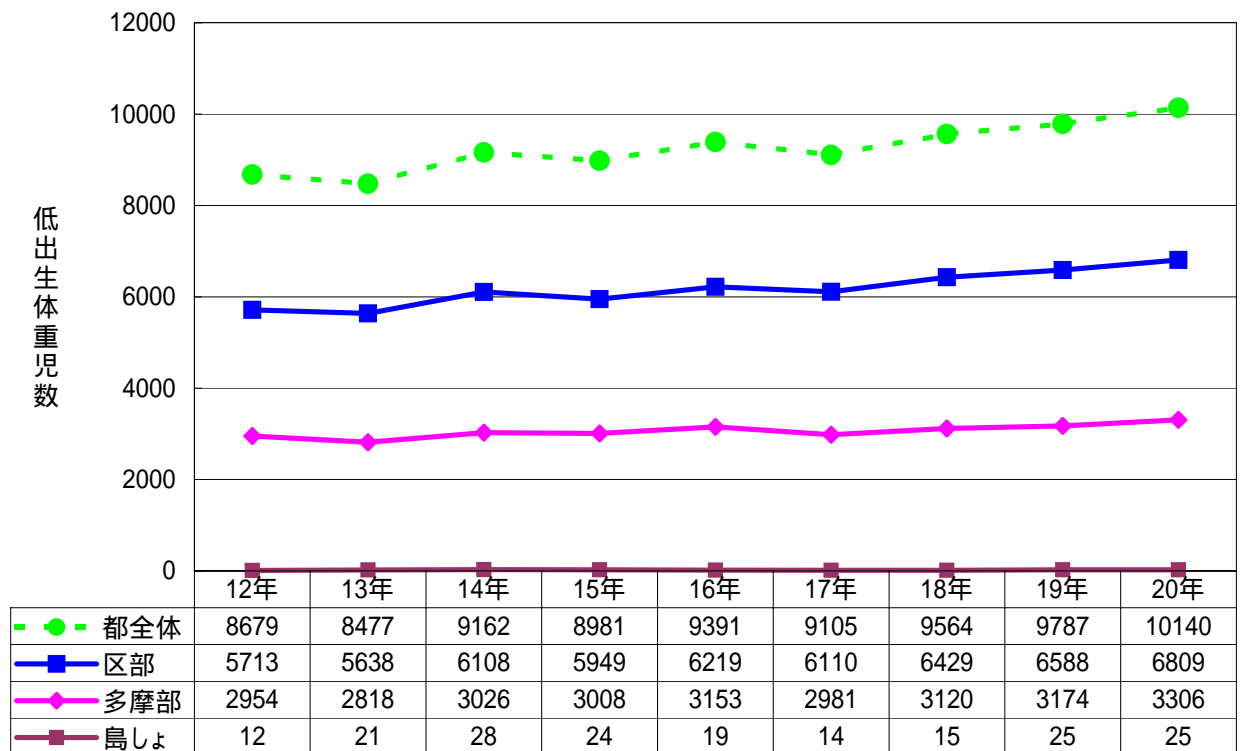
体重別出生数は、人口動態(平成19年)による。499g以下は人口動態統計がないため、999g以下に含まれる。  
NICU入院率、NICU入院期間は  
平成19年厚生科学研究「NICUの必要病床数の算定に関する研究」藤村正哲、楠田聡らによる数値を参考。

## 3 平成20年のNICU必要数(体重別推計値)

	出生体重	年間出生推計数	NICU入院率(%)	NICU入院期間(日)	NICU必要数	
体重別	～ 999g	325	100	96.4	85.9	
	1,000～1,499g	496	100	64.9	88.2	
	1,500～1,999g	1,228	51	24.2	41.5	
	2,000～2,499g	8,091	11	16.2	39.5	
	2,500g～	95,875	1	16.7	43.9	
合計		106,015			299.0	出生千対 2.82
	内低出生体重児	10,140 (速報値)				

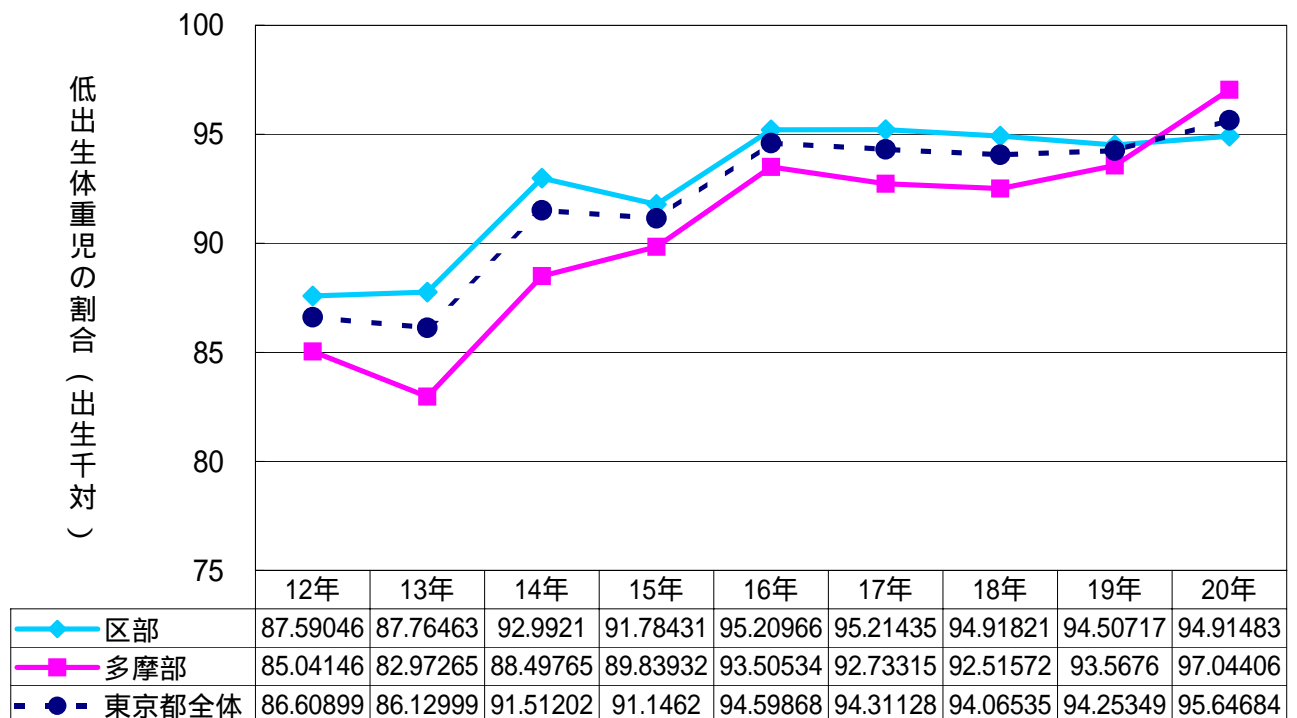
低出生体重児(19年 9,787 20年速報値 10,140(19年比1.036の増加))  
平成20年の体重別低出生児数は、19年の1.036倍を体重別数に一律に乗じた  
NICU入院率、NICU入院期間は  
平成19年厚生科学研究「NICUの必要病床数の算定に関する研究」藤村正哲、楠田聡らによる数値を参考。

#### 4 低出生体重児数の推移



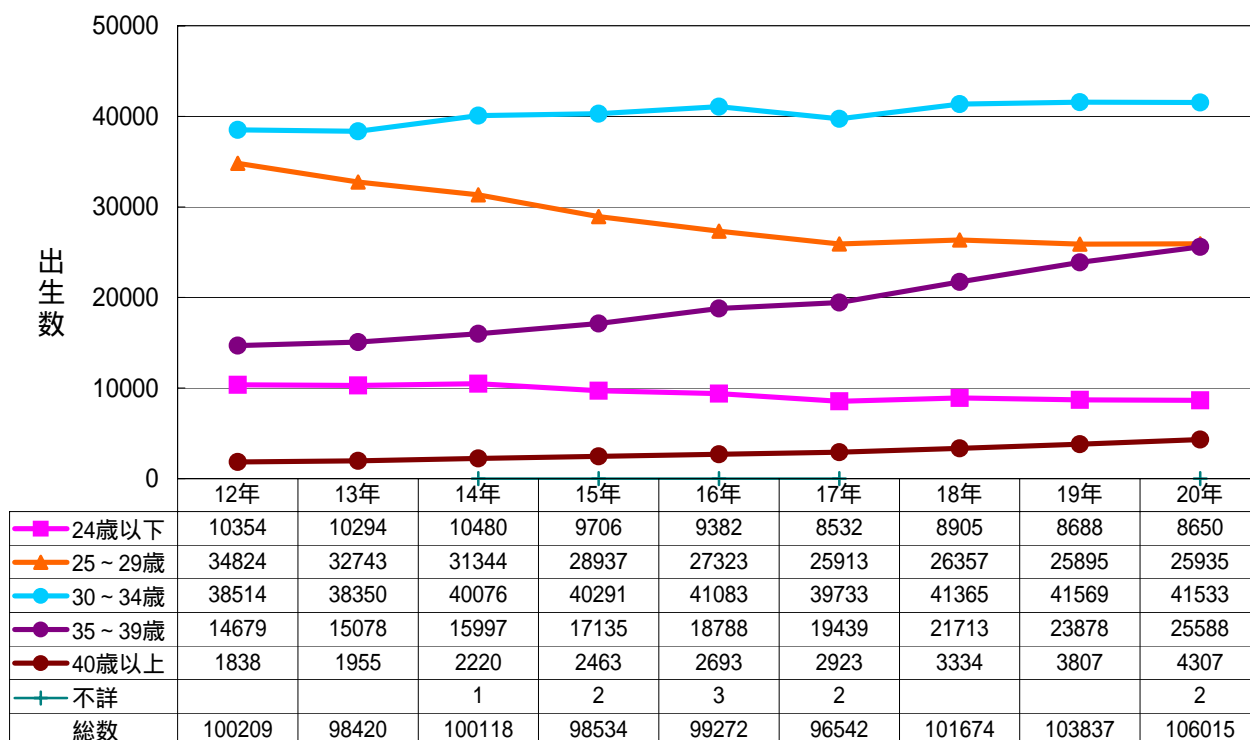
出典：人口動態統計

#### 5 低出生体重児の割合の推移



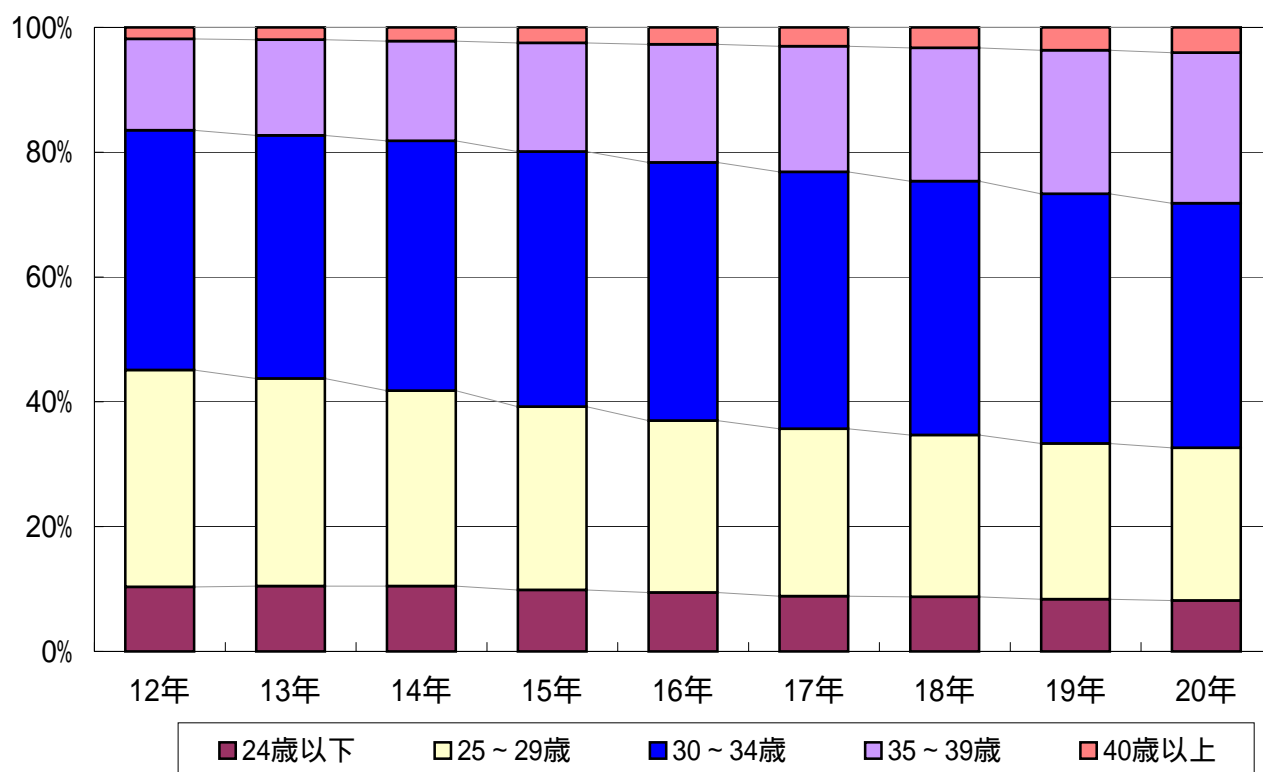
出典：人口動態統計

## 6 母の年齢の推移（全体）



出典：人口動態統計

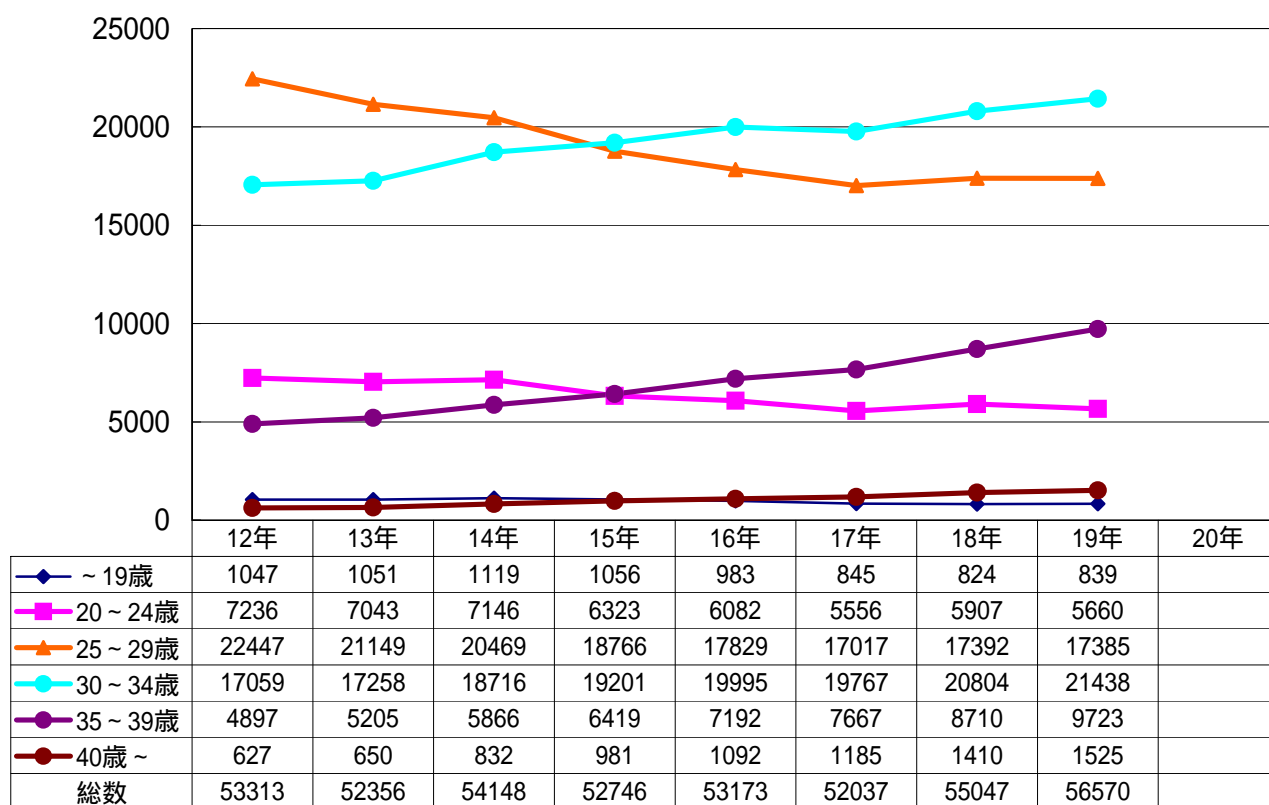
## 7 母の年齢の割合の推移(全体)



年齢不詳を除く

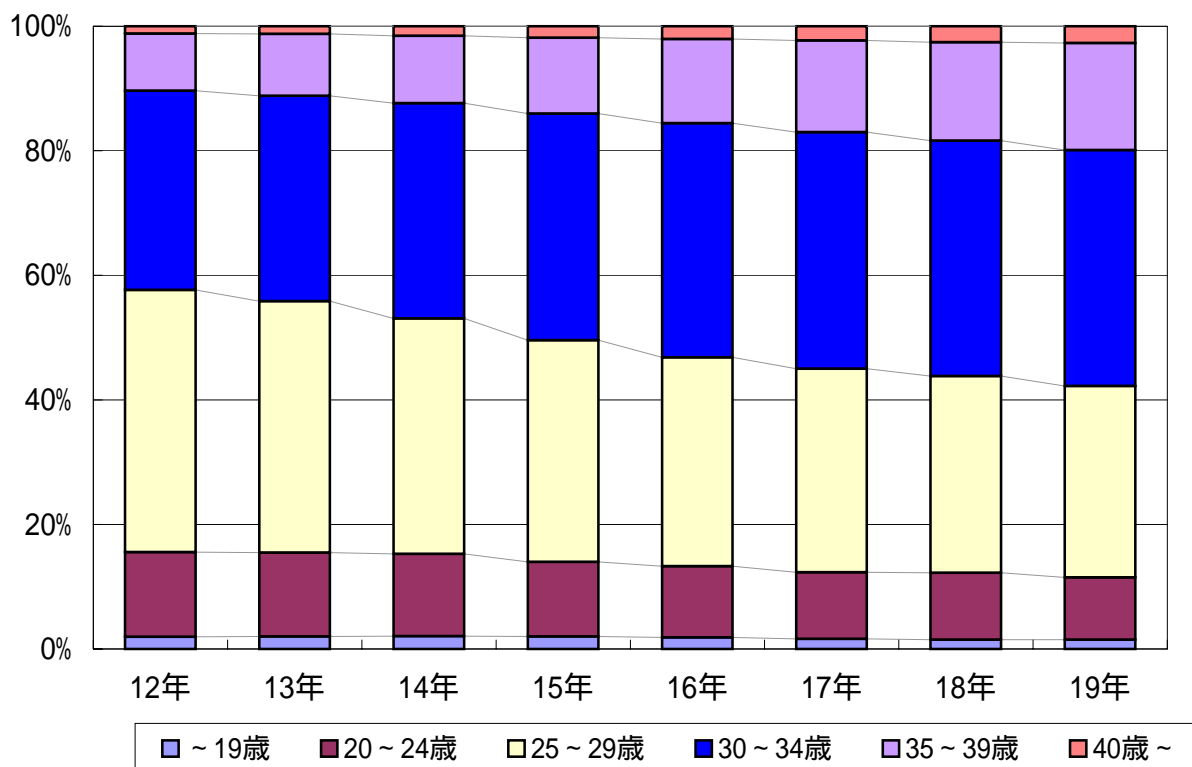
出典：人口動態統計

### 8 母の年齢の推移(第一子)



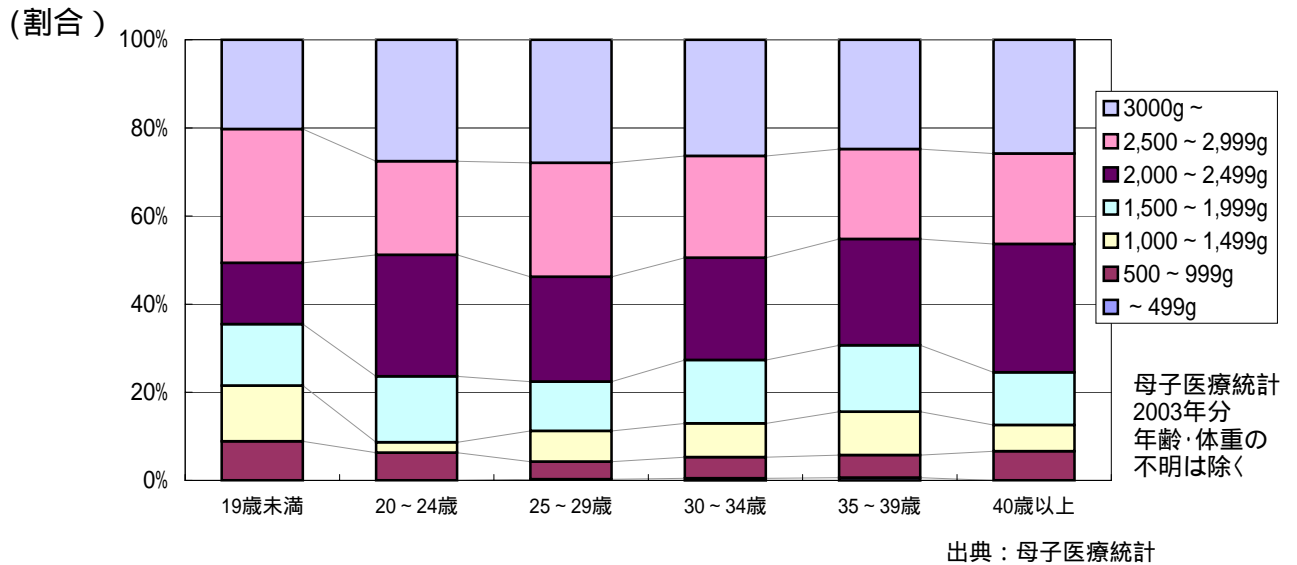
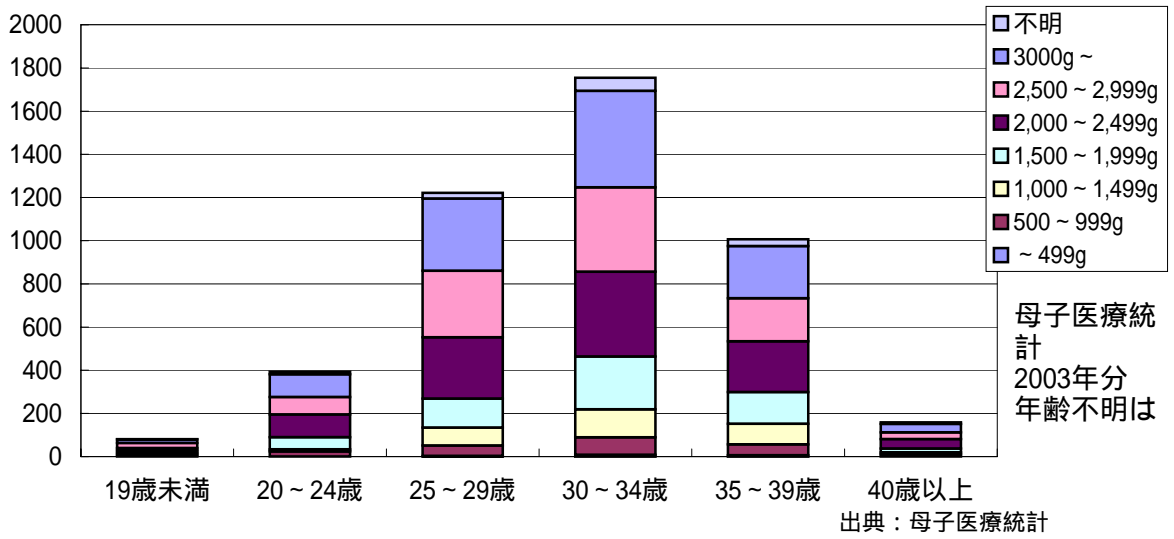
出典：人口動態統計

### 9 母の年齢の割合の推移(第一子)

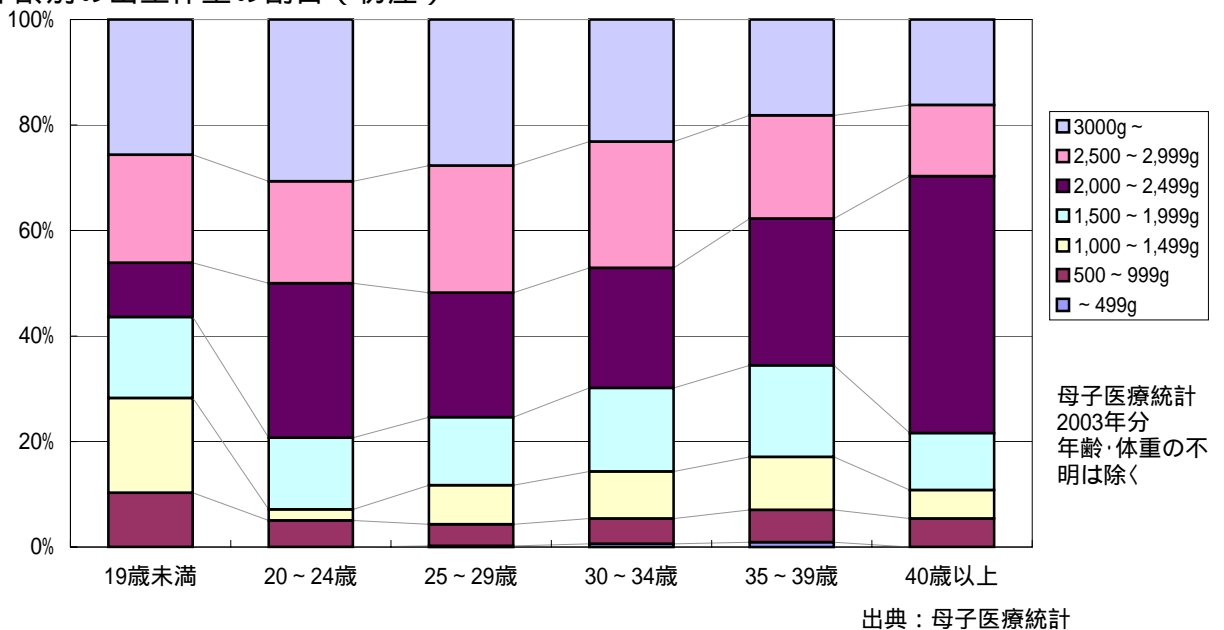


出典：人口動態統計

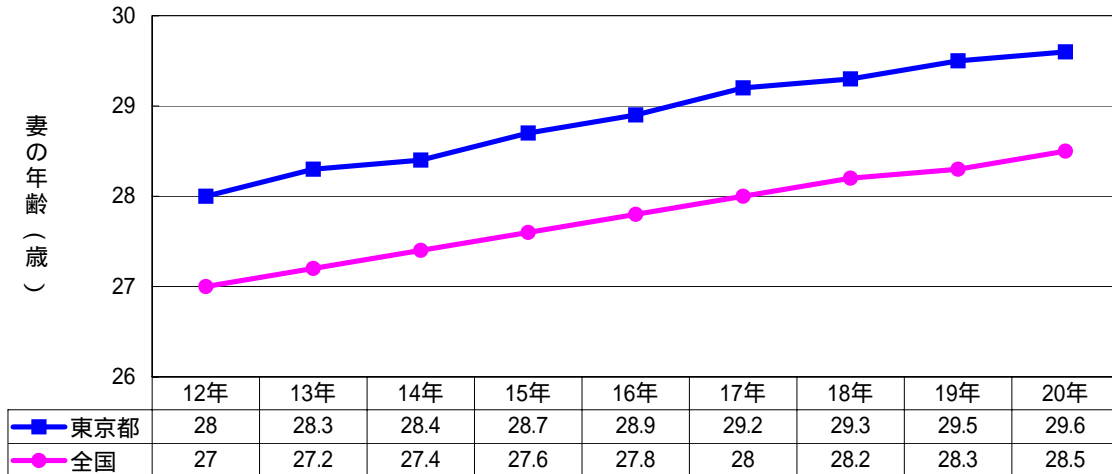
## 10 出産年齢別の出生体重児数



## 11 出産年齢別の出生体重の割合（初産）

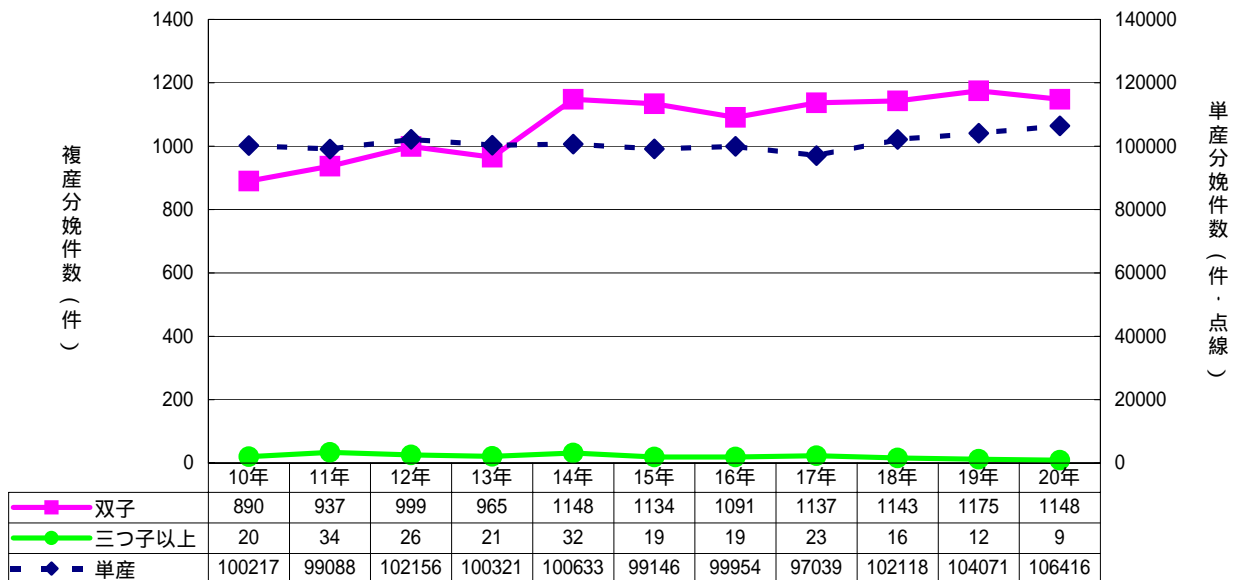


## 12 平均初婚年齢の推移



出典：人口動態統計

## 13 単産・複産別の分娩件数

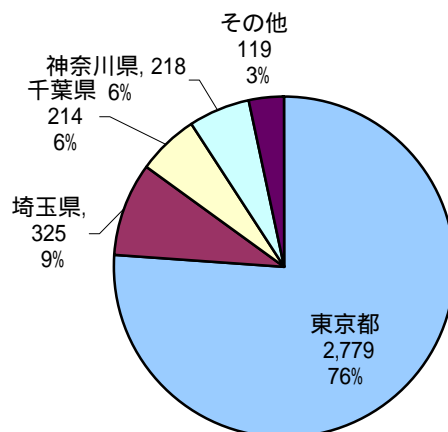


死産の単産、複産の不詳を含む

出典：人口動態統計

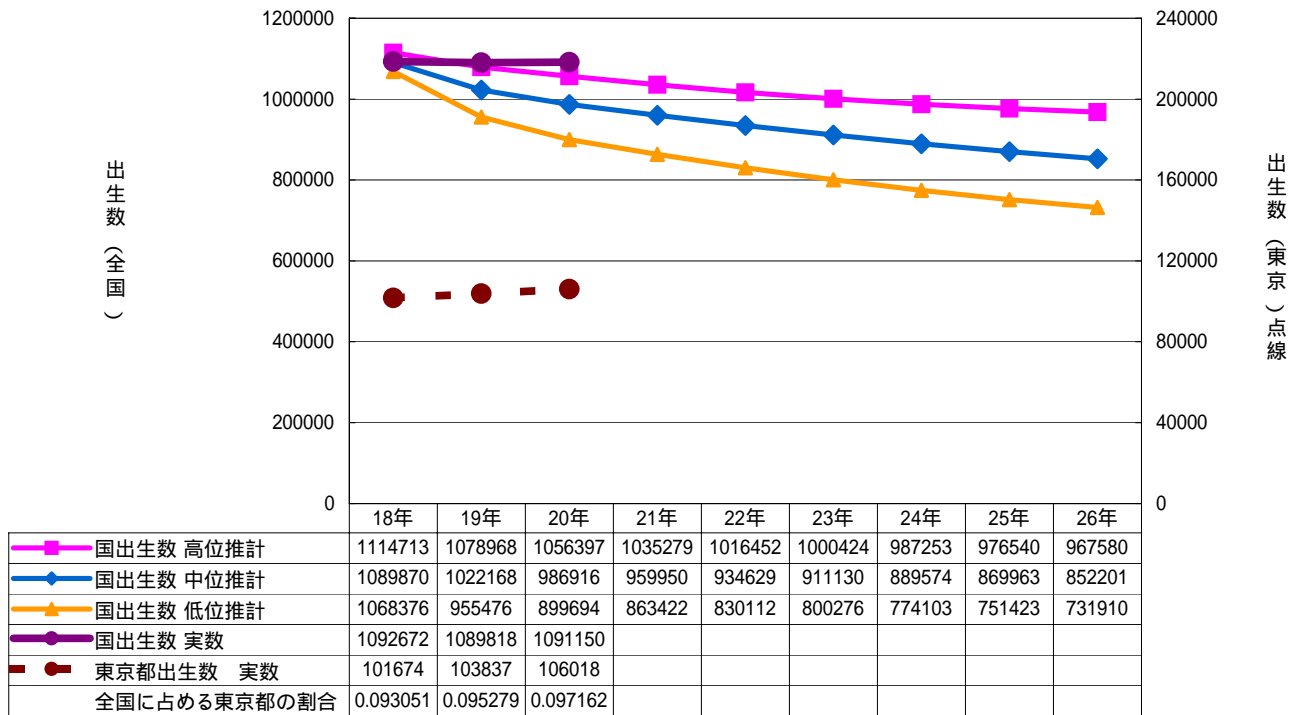
## 14 周産期母子医療センター（NICU・GCU）の利用者住所別の割合

（平成15年入院者）



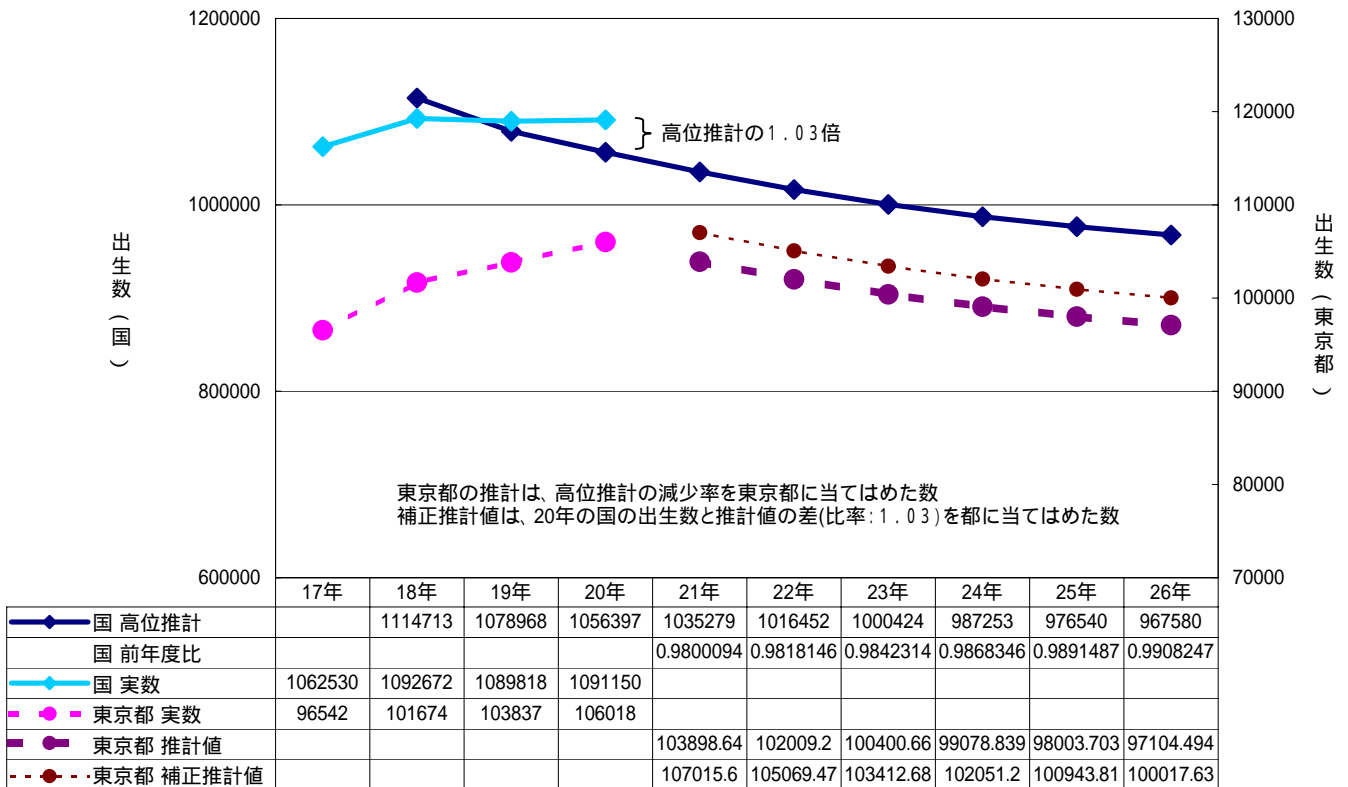
出典：母子医療統計

### 15 出生数の推移(予測)



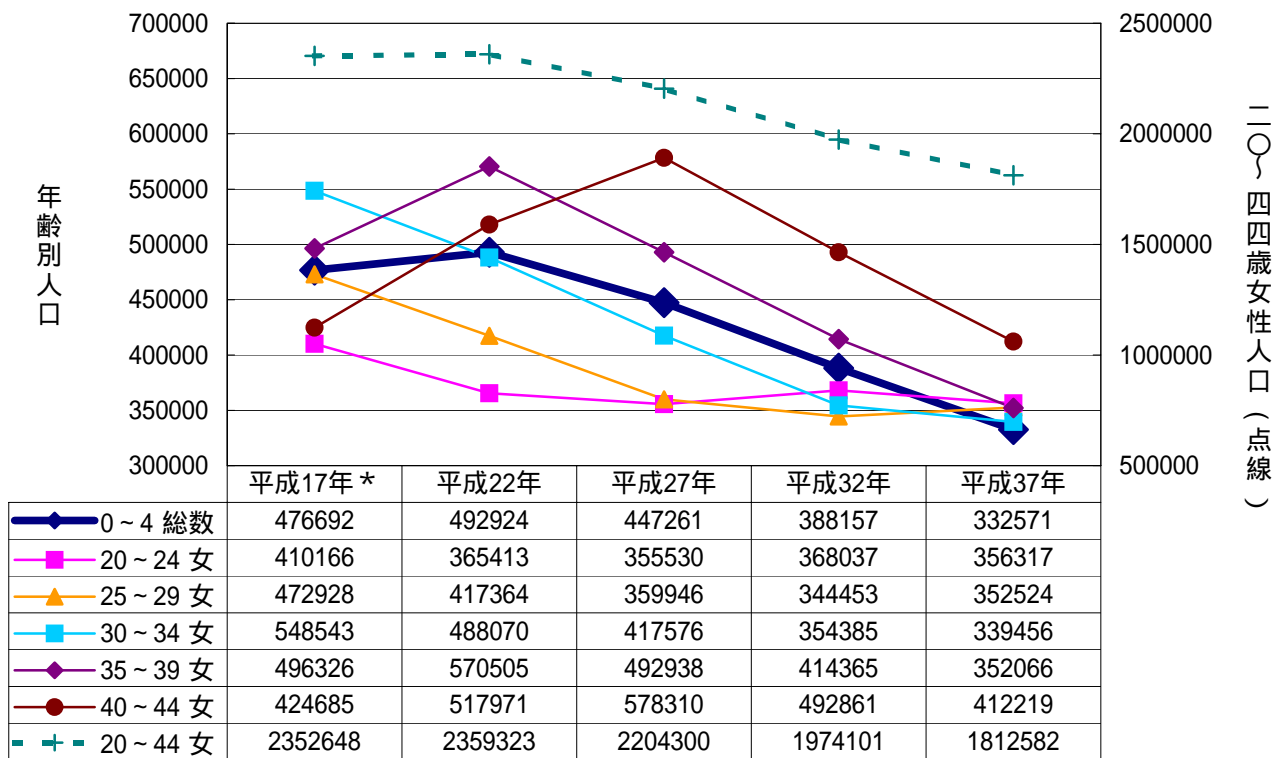
全国の推計値は、国立社会保障・人口問題研究所平成19年から、実数は人口動態調査

### 16 全国の出生数高位推計の減少率を用いた東京都の推計



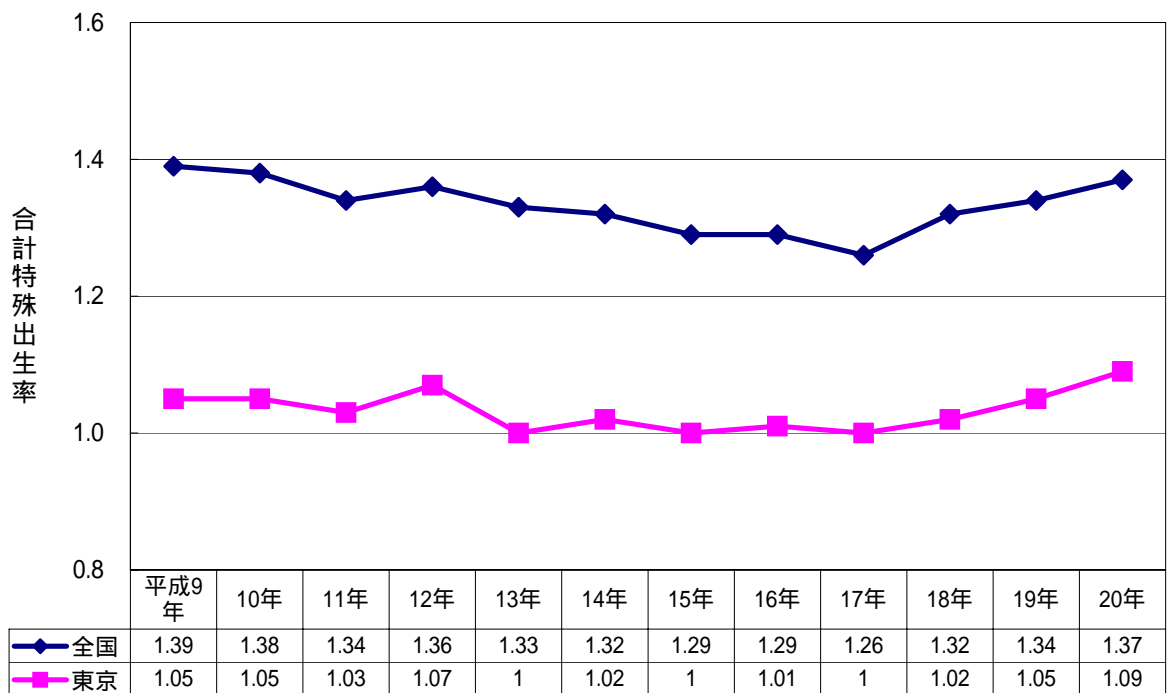
全国の推計値は、国立社会保障・人口問題研究所平成19年から、実数は人口動態調査  
都の推計値は、国の高位推計の推移と実数の差の比率から試算

### 17 東京都の人口の将来推計



東京都 男女年齢(5歳階級)別人口の予測  
\*は、国勢調査結果による

### 18 合計特殊出生率の推移



出典：人口動態統計年報



## N I C U整備目標 (平成26年目標)

### 現状

平成9年以降、都内全体を一つの圏域としてN I C U200床の整備を目標としてきた。  
200床確保後も整備を推進してきた。

### N I C U増加を必要とする要因 (増加要因)

出生1万対25～30床 (国の整備指針 (案))

⇒ 平成20年の出生数では、265床 (1万対25) から318床 (1万対30)

低出生体重児数の増加

⇒ 平成20年に初めて10,000人を超える

低出生体重児の割合の増加

⇒ 平成20年の出生では、10人に一人が低出生体重児

晩産化の進行

⇒ 平成20年は、約70%が30歳以上の母からの出生

晩婚化の進行 (平均初婚年齢が国平均より高い)

⇒ 東京の妻の平均初婚年齢は上昇し、平成20年は約30歳

不妊治療等による複産分娩件数の増加

⇒ 同時に複数のN I C Uが必要

他の地域からの搬送

### N I C U減少にかかる要因 (減少要因)

出生数の減少

⇒ 平成26年は、平成17年、平成18年のレベルに減少

ただし、実際の出生数は推計値よりも多いので、実際の出生数は推計値より  
多くなると考えられる。

20～44歳の女性人口の減少

⇒ 20歳代、30歳代前半は減少、30歳代後半は平成27年は17年とほぼ同数

現時点で300床の整備が必要 (東京都の出生分で1万対28床が推計値)  
今後、出生数は減少する一方、増加要因はさらに上昇することが予想される



当面の間 (平成26年まで) 出生数の1万対30床を基本に整備目標を定める

平成20年出生数の1万対30の318床 (約320床)